

薬剤師だから知っている。3分間の薬と健康の裏情報

273号 花粉症について

3回シリーズの1回目



漢方の健康堂薬局の店主 長澤昭と申します。

3月11日（金）に発生した東北地方太平洋沖地震により、被災された皆様に対し、心よりお見舞い申し上げます。

273号 3回シリーズの1回目（11月01日発行）

1. 花粉症と減感作療法
2. 減感作療法の意義

短編（科学のよもやま話）第190号（11月08日発行）

花粉の飛散量と症状のひどさとは一致しない

274号 3回シリーズの2回目（11月15日発行）

3. 花粉症の漢方薬

短編（科学のよもやま話）第191号（11月22日発行）

花粉症でない方の、花粉症にならないための注意点

275号 3回シリーズの3回目（11月29日発行）

4. 花粉を体内に入れないことの重要性
5. 花粉を体内に入れない方法



273号 花粉症について

1. 花粉症と減感作療法
2. 減感作療法の意義

1. 花粉症と減感作療法（東京都のホームページの転載。平成21年10月26日
東京都福祉保健局）

約7割の花粉症患者で有効性が確認されました。花粉症患者が利用しやすい新たな減感作療法※1）の研究成果

東京都では、「10年後の東京」計画において花粉症対策を一層推進することとしています。100名を越す患者さんの協力を得て進めてきた花粉症の舌下減感作療法の臨床研究の成果がまとまりましたのでお知らせします。

1. 研究概要

（1）研究の背景

現在の花粉症治療は症状を抑える対症療法が中心となっています。根本的治療法である減感作療法は、皮下注射によるものが実用化されていますが、通院回数や痛みなど患者の負担が大きいため、利用しやすい治療法の実用化が待ち望まれています。そこで、「舌下減感作療法」の早期実用化を目指し、臨床研究を実施しました。

（2）研究体制

実施機関

東京都臨床医学総合研究所、日本医科大学

臨床試験協力医療機関

別紙概要版に記載された日本医科大学を含む都内

8 医療機関

(3) 期間

平成 18 年 4 月から平成 21 年 4 月まで

2. 研究成果のポイント

詳細は別紙参照

(1) 有効性及び安全性

最終的に症状が消失又は軽減した症例は約 7 割であり、有効性が確認されました。重篤な副作用は一例も無く安全性が確認されました。

(2) 治療効果の予測

舌下減感作療法の治療効果の予測に活用が期待される血液中の特定の成分や特定の遺伝子が判明しました。この研究成果については、東京都臨床医学総合研究所等が特許を出願しています。

3 今後の取組 <略>

※1 舌下減感作療法

アレルギーと呼ばれる原因物質（花粉症の場合は花粉）を体内に少しずつ取り込ませて、根本的な体質改善を期待する方法。舌下減感作療法は、既に実用化されている皮下注射で

の減感作療法に比べ、苦痛が少なく、通院回数も減らせるなどのメリットがあり、利用しやすい治療方法としてその実用化が望まれている。

※2 治療効果の予測

舌下減感作療法は約7割の患者で有効であったが、効果が得られない患者がいることも確認されている。個々の患者の血液中の特定の成分や特定の遺伝子を組合わせて検証することにより、患者ごとに舌下減感作療法の効き目を予測する。今後、予測手法が確立すれば、効果が期待できる患者のみに投与を行うといった治療に結びつく可能性がある。

2. 減感作療法の意義

減感作療法とは、その患者さんのアレルゲンをほんの少しずつ体内に入れ、徐々に増やしていくことでそれに対する過敏な反応を減らしていこうという治療法です。

本来、細菌やウイルスといった外敵が体内に入り込んだときに、体を守るために働く免疫系が勘違いを起こすのがアレルギー反応です。花粉症の人の場合ですと花粉という本来外敵でも何でもない物（アレルゲン）が体の中に入ってきたときに、免疫系が「おや？これって外敵かな？」と勘違いして過剰な反応が起こってしまうのがアレルギー反応です。

この勘違いを直すために、ほんの少しのアレルゲンを体内に入れます。免疫系は、少ない量のアレルゲンに接触したときには、「外敵だ！」と思わずに「これって何だったっけ？」と、考え込んでしまいます。つまり過剰な反応はしません。そしてしばらくして

から、もう少しだけ多い量のアレルゲンを体内に入れます。その
ときも免疫系は「何か見覚えがあるけど、敵だったかなあ？忘れた
なあ」となり、「敵のような気もするけど、まあ適当でいいや」と
なって、反応が弱くなってしまうのです。これを何度か繰り返す
ことにより、やがて花粉が体内に入ってきて、それに対して過剰
な反応すなわち花粉症の症状を引き起こさないようになります。
これが減感作療法です。

減感作療法は、アレルギー治療の中ではそれを「治す」という
ところに一番近い方法であると言えるでしょう。

以上、今週の内容でした。

—[プロフィール]—
[プロフィール]

■長澤 昭（ながさわ あきら）1952年 静岡県生まれ
1980年に薬局を創業。
2000年、毎日新聞「アミューズ」に、「漢方薬に詳しい薬局」として、
全国わずか35店のうちの1店として取り上げられる。
2001年、約300の病名・症状別の「病気別漢方選薬システム」を完
成させる。
現在は、当店HPにて公開中

登録／解除の方法

↓ ↓ ↓

<http://kenkodo.web.infoseek.co.jp/melmaga.html>

(E-Magazine からご購入の方はこのメルマガの一番下に解除フォーム有り)

□注意・免責事項

◎一般の方向けの内容なので、厳密な医学用語は使用していません。医学的な専門性から考えた場合、妥当でない表現があると思いますが、なるべく平易な表現を使用するようにしてあります。

◎個別の健康相談を行うものではありません。

◎体の状態は個人によって異なっています。現在治療中の方はかかりつけの主治医と相談をしてください。

◎ご自分の責任の範囲でご利用ください。記載内容を利用し生じた結果について、当方では責任がとれませんのでご了承ください。

=====

薬剤師だから知っている。3分間の薬と健康の裏情報

発行者：漢方の健康堂薬局

発行責任者：長澤昭

<http://www3.ocn.ne.jp/~kenkodo/>

E-mail: <mailto:kenkodo@oregano.ocn.ne.jp>

「薬剤師だから知っている。3分間の薬と健康の裏情報」の本文は、著作権により保護されています。

ただ、個人的にお友達に転送することは自由です。その場合、このメルマガの一部だけを転送するのではなくて、全文を転送していただけると、うれしいです。よろしければ、お知り合いの知人、友人に教えてあげてくださいね（商用の場合を除く）。

転載の場合はご一報ください。

=====